

## 第3回日仏自治体交流会議が開催されました ～フランス・シャルトル市に日仏42自治体が集結～

交流親善課

日仏交流 150 周年を記念して、2008 年 10 月にフランス・ナンシー市で開催された「日仏自治体交流会議」は、多くの自治体の賛同を得て、2010 年 5 月に第 2 回会議が金沢市で開催され、1 対 1 の自治体間交流の枠組みを超えた多面的な自治体交流のモデルを提起してきました。本年 8 月 28 日から 8 月 30 日に渡り、フランス・シャルトル市において第 3 回会議が開催され、自治体のグローバル化への対応策について熱心な議論が交わされました。

会議が開催されたシャルトル市はパリの南西約 90km に位置するウール・エ・ロワール県の県庁所在地であり、UNESCO の世界遺産に登録されたシャルトル大聖堂を有する歴史の町です。会議の前後には、コンピエーニュ市及びパリ市が主催する視察や意見交換を目的としたプログラムも開催されました。



8 月 29 日、シャルトル劇場には、日本の 15 自治体と関連団体から 65 名、フランスの 27 自治体と関連団体から 70 名が一堂に会し、『グローバル化への対応に向けて、自治体は如何に備えるべきか』をテーマに、活発な意見交換が行われました。

日本側推進委員長 金沢市 山野市長



全体会で発表する兵庫県 井戸知事

全体会では、藤本章 仙台市副市長が『東日本大震災からの復興と再生可能エネルギーの構築』と題して、大震災の被害と復興の現状や同市が推進する省エネルギー・新エネルギー関連プロジェクトを説明されました。古田肇 岐阜県知事は、『岐阜県のグローバル戦略とフランスとの交流』について、井戸敏三 兵庫県知事は、『ひょうごの防災とグローバル戦略』と題して



第 3 分科会で取組を紹介する松島町 大橋町長



日仏交流優良賞受賞スピーチを行う仙台市 藤本副市長

両県の取組やフランスとの交流について発表しました。

午後からは、会場をシャルトル市庁舎に移し、「経済の革新」、「文化の革新」、「持続可能な発展、生活環境における革新」の3分科会（右表）に分かれて、発表と討議を行いました。

また、今回の第3回会議から、日本とフランスの先進的な自治体間連携を選定し表彰する「日仏交流優良賞」と、市民とともにグローバルな問題を議論する「市民との対話集会」が新たに加わりました。

「日仏交流優良賞」は、東日本大震災で被災した仙台市に対する姉妹都市のレンヌ市による積極的な支援や交流活動が評価され、両市が受賞しました。

閉会式では、マセ駐日フランス大使が最終宣言を読み上げて第3回日仏自治体交流会議の成功を祝福し、次回2014年の開催地を日本の高松市とすることを宣言しました。続いて登壇した大西秀人 高松市長から、高松市の魅力紹介と第4回会議への参加要請がなされ、満場の拍手で会議は幕を閉じました。



第4回高松会議での再会を誓った参加者

当会議の詳細は、『自治体国際化フォーラム 1月号』で紹介する予定です。次回会議への参加や当会議へのご質問は、CLAIR交流親善課（日仏自治体交流会議日本側推進委員会事務局）までお気軽にお問い合わせください。

電話：03-5213-1723 電子メール：shimai@clair.or.jp

会議の概要	
テーマ 『グローバル化への対応に向けて、自治体は如何に備えるべきか』	
全体 会 発 表	仙台市副市長 藤本 章
	岐阜県知事 古田 肇
	兵庫県知事 井戸 敏三
	シャルトル市長・下院議員 ジャン=ピエール・ゴルジュ
	ナンシー市助役 ジャン=ミシェル・ベルルモン
	オート・ノルマンディー州議長 マルク=アントワーヌ・ジャメ
	フランス都市連合議長・上院議員・元大臣 ミッシェル・ドゥルバル
イッシー・レ・ムリノー市長・元大臣 アンドレ・サンティニ	
分 科 会	①経済の革新 甲府市、甲州市、佐久市、桜井市、高松市 コンピエーニュ、ナント、パリ、セーヌ・エ・マルヌ、ヴァル・ド・ワーズ、シャルトル
	②文化の革新 金沢市、富岡市、新潟市、朝来市 オータン、コンピエーニュ、ナンシー、ナンシー大都市共同体、トゥール（Tours）
	③持続可能な発展、生活環境における革新 松島町、白河市、佐賀市、仙台市 マラコフ、トゥール（Toul）、レンヌ、ショワジ・オ・バック、マルセイユ、タラスコン（コンピエーニュ）
	市民との対話集会
	テーマ『グローバル化に対して、各自治体が市民のために取り組んでいること』 富岡市、朝来市、桜井市、高松市 クサク・フォル・メドック、レンヌ、シャルトル

※下線部は、各分科会の座長自治体。